

令和7年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「 「他人事」が「自分事」に 」

青森県 外ヶ浜町立三厩小学校 6年 柚谷 美咲

日本は地震や台風、大雨など、さまざまな自然災害が起こりやすい国です。ニュースを見ていると、いろいろな場所で自然災害が起きているのをよく見かけます。それを見るたびに「こんな災害が起きると大変だな」と思っていました。しかし、何度災害のニュースを見ても、どこか他人事のように感じていたのも事実です。その証拠に、私は今まで「自分の町ではそんな災害は起きてないだろう」と、心の中で思っていました。しかし、その考えが大きな間違いだと気づかされた出来事が起きました。それは、3年前の夏のことです。私が住んでいる外ヶ浜町で、大きな土砂災害が発生しました。そのきっかけとなったのは、数日にわたって大雨が降り続いたことでした。空が暗く、すごい音を立てて雨が降る日々が三日ほど続きました。そのとき私は家族と一緒に町の外へ出かけていましたが、テレビで見る雨の強さにとても心配になりました。その一方で、まだ私は「まあ、自分の家は大丈夫だろう」という気持ちが心の中にありました。

雨が少し落ち着いて、外ヶ浜町に戻ることになったとき、いつもの道とは違う道を通って帰ることになりました。そのときにお父さんとお母さんが「いつもの道は土砂が流れているから危ないね」と話しているのを聞いて、私は不思議に思いました。大雨と土砂のつながりが、よく分からなかったからです。しかし、家が近づくにつれて、私は少しづつそのつながりを実感するようになりました。山の近くを通ると、木が倒れたり、茶色い泥が道に広がっていたりして、いつも見慣れていた景色がまるで別の世界のように感じられました。一つの災害が、別の災害を引き起こしてしまうことを、このとき初めて実感しました。ここで私は「もしかしたら家に帰れなくなるかもしれない」と、ようやく災害を自分事として実感することになりました。また、「友達が被害にあっていたらどうしよう」と不安でいっぱいになりました。

その後、なんとか無事に家に帰ることができ、後日学校に行くと、みんながこの災害の話をしていました。「トンネルに、土砂が流れこんでいた」「目の前の海が、どろどろにごっていた」など、いろいろな声が聞こえてきました。特に、友達の家の前まで泥水が押し寄せていましたと聞いたときは、本当にびっくりしました。こんなことが自分の町で、しかも友達のすぐ近くで起きたなんて信じられませんでした。ショックな出来事はさらに続きました。その日の夜、家に帰ると、お父さんがニュースを見ていました。私も一緒にニュースを見ていると、「外ヶ浜町では、家が倒壊した場所もあります」というリポートとともに、土砂に飲み込まれてぐしゃぐしゃになってしまった家が映し出されました。胸がとても苦しくなりました。同時に、私はもっと当事者意識をもって、自分事として災害について考えなければいけないと強く感じました。

ただ、いい意味でおどろいたこともあります。この土砂災害では、けがをした人も亡くなった人もいなかつたそうです。これは、テレビや町の防災無線による避難勧告をもとに、住民が素早く避難できたことが大きかったと言っていました。私はこのことが本当にすごいと感じました。普段から、いつ災害が起きてもいいように、備えをしっかりとしていたから、素早く避難できたのだと思います。私も、見習わなければいけないと感じました。

それから私は、防災と備えについて真剣に考えるようになりました。非常用持ち出し袋の準備やハザードマップの確認、今からできることがたくさんあるのだと知りました。これまであまり気にしていませんでしたが、「知っていること」と「準備していること」が命を守るために大切なのだと思います。また、「非常用の持ち出し袋やハザードマップを実際に使わなければならない日が来たら怖いな」とも感じて、いつ起こるか分からない自然災害は本当に恐ろしいと実感しました。

この土砂災害の経験を通して、私は「災害はどこでも起きるかもしれないこと」「起きる前から備えておくこと」がとても大事だと学びました。これからも、災害について考えたり、学校や家庭の中で防災のことを話したりして、何が起きても落ち着いて行動できるようにしたいです。もしものときに備えることは、未来の自分や大切な人たちを守ることにつながると信じて、私はこれからも備えを続けていきます。